

が孤君でなくなり、甲年生まれの人には三合宮の財帛宮に、天存が入り、天存の吉祥が出るからです。

「紫薇・天府」の二星が同宮しますと、一生をゆうゆうと安楽に暮らせます。古書には「終身ハ福厚シ」とあります。——古書・一般説

この「紫薇・天府」二星同宮（命宮）を、一般にはすばらしい吉祥として取りあげていますが、現実にはさほどの吉兆が見うけられません。というのは、官禄宮があまりかんばしくないからです。人生の命運にとって一番に大切な（特に男性）職業・仕事・名声の面で問題のある命式だからです。

「紫薇・天府」の二星が同宮するということは、寅支・申支の場合しかありません。二支とも、命宮は紫薇・天府が旺、財帛宮は武曲が旺、遷移宮は七殺が旺となりますが、官禄宮には矢の廉貞・天相が入ります。形や外見のみが吉で、内実がと

紫薇についた時——気品の増加、権威の拡大、指導力の向上。

巨門についた時——弁護の上手、交渉の巧妙さ、研究力の増加。

化科星の象意

「化科」は生年干によって、次の十種の主星につきまします。化禄・化権とちがって、目に見える吉祥より、無形面・精神面の向上と充実になり、自己が真に喜びを感じる吉兆です。

武曲についた時——経済面の見通しのよさ、財利の知恵、事業上の企画力増加。

紫薇についた時——人柄の吉兆増加、言動の優美、多人数からの尊敬。

文昌についた時——才知の開花、知能の発展、文化文芸面の充実、学問向上。

天機についた時——（文昌と同じ）

太陽についた時——指導力の発揚、人徳の増加、言動の華麗さ。